

『みんなちがってみんないい』

校長 木村明彦



今年も、いよいよ残すところ、あと一月となりました。寒暖を繰り返し、徐々に冬本番へと季節が移り変わり、晴れた日は、白さを増した羊蹄山の勇壮な姿に目を奪われます。これからは、寒さが一段と厳しくなる季節です。保護者・地域の皆様におかれましては、健康に留意され、お過ごしいただきたいと思ひます。

子どもたちの学習は、2学期末に向けて、まとめの時期に入ります。長かった2学期であったからこそ、子どもたちはどの子も、いろいろな力を身につけることができました。せっかく身につけた力ですから、しっかりとまとめを行い、学習内容はもちろんのことですが、育んだ「優しさ」や「思いやり」などの心の温かさも定着させてほしいと思っています。

さて、近年の急激な社会の変化に伴い、学校教育においても、『指導内容』や『指導方法』等々、「質」や「量」も含めて、ありとあらゆるものが変わっていく転換期にさしかかっています。教育現場には、それらの変化に対応すべく、多くのキーワードが飛び交い、先生たちもそれらをどう咀嚼(そしゃく)し、子どもたちに伝えていくべきか、日々奮闘しているところです。『個別最適化』『協働的な学び』『主体的対話的』…まだまだたくさんあります。それらキーワードの一つに、『多様性』という言葉があります。以前は、「多くの人と異なる特徴=異質」とされ、周囲から理解が得られず、多くの人たちが苦しい思いをしていました。現代は、『多様性』が尊重される時代へと変わってきています。お互いの違いを認め、自分も相手も大切にすることで、補い合っ、安心して生きていけるという社会に変わりつつあります。しかし、多様性の対象は、社会的マイノリティーの人々のような「誰か」で、自分ではないと無意識に感じている人々が存在することも事実です。「食べ物」「働き方」「考え方」「価値観」等々、人それぞれに異なって当たり前です。つまり、『多様性』とは、特別な人のことばかりを指すのではなく、誰しもがオリジナルで、『多様な一人』と言えます。今の子どもたちが大人になる頃には、互いを尊重し合える、優しい社会となっていることを願います。それでは、子どもたちに『みんなちがって、みんないい』、どう伝えていったらよいのでしょうか。いくつか、コツがあるようです。①「しったかぶりをしない」…大人もわからないことがたくさん、知らないことは、一緒に学ぶ姿勢で！アップデートが必要です。②自身のマイノリティー(少数派)体験を思い出してみよう！…「大勢と異なる意見を持った時、心細かったけど、誰かが優しくしてくれたら安心した」等。学校でも、子どもたちには様々な場面で、自分のことだけではなく、「相手意識をもって」という指導をしています。ご家庭でも、機会があれば、お話をして頂けたらと思います。「みんなちがって みんないい」んだよ。



本年度の重点目標

主体的・対話的に学ぶ力の育成～意欲溢れる優しい子～



大自然に囲まれた学び舎にふさわしい「きもべつの子」を共に育てましょう！



読書週間

今月の読書月間に合わせ、毎朝読書をする読書週間を設定しました。また、その期間中、低・中・高学年に分かれ、担任外の先生方が読み聞かせをしたり、休み時間には生活図書委員会の児童による読み聞かせを行ったりするなど、さまざまな本に出会う機会がありました。

読み聞かせで紹介された本の中には、「せめてぼくを食べた人が自分の命を大切にしてくれたらいいな」「仲直りしたいのにあの一言が出てきません。『ごめんね』って。」「あなたはいつの日も気丈に振る舞って自分より私のことを気遣い続けていた」等の文がありました。子どもたちの心にも何か残るフレーズがあったのではないのでしょうか。

本を読むことは、遠いところにあるものを想像したり、他者のことを考えたりするきっかけとなります。知識を得ることはもちろん、自分以外の物への想像力を働かせ自分の世界を広げるためにも、これからたくさんの本に出会う読書活動を推進していきます。



異学年と一緒に

体育のマットや跳び箱などの学習では、先生方を多く配置し、個人のレベルに合わせた場の設定や安全確保を目的として、2学年ずつ合同で授業を行うことがあります。鬼ごっこやドッチボールなどでも、人数がいた方が作戦を考えて活動できることから、こちらも合同で行われています。

3・4年生の跳び箱の授業では、異学年合同のチームになり、タブレットを使って動画を撮影し、ポイントとなる動きを確かめたり、技を成功させるためにアドバイスをし合ったりする姿が見られました。

また、先日は2年生が1年生を招待し、自分たちが作ったおもちゃで遊んでもらう、「わくわくおもちゃランド」が開催されました。2年生は、「1年生に楽しんでもらうためにはどうしたらよいか」という視点で考え準備を進め、当日も1年生を楽しませようと優しく声がけをしていました。上級生が模範となる姿を見せ、優しく下級生に関わっているからこそ、喜茂別小学校の伝統が引き継がれているのだと感じます。

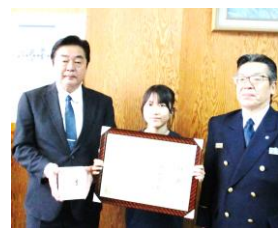
1日防災学校

今年度は、喜茂別消防署の中村さん、原さんを講師に迎え5・6年生を対象に子どもでもできる「救命法」について教えていただきました。ペットボトルを利用した、胸骨圧迫の練習や、段ボールとガムテープを利用した固定法などについても体験することができました。また、学校に設置されているAEDの場所も確認しました。災害時や緊急時に自分たちにできることは何か確かめる機会となりました。



防火ポスター表彰

今年度の防火ポスター作品展で、6年生の工藤穂浪さんが佳作を受賞し表彰されました。



鈴木教諭ありがとうございました

杉内教諭の育休代替として、約1ヶ月間、2年生の担任をしていただきました鈴木教諭の勤務が11/27で終了しました。子どもたちを温かく見守り、ご指導いただいたこと感謝しております。